

Ⅲ. 現代の信者にとっての生活ルール

□アウトライン

1. 生活ルールは、2つから成る・・・メシアの律法+旧約聖書の中の永遠の原則
2. 生活ルールを守る力は、神から来る・・・これは旧約聖書時代の信者には、なかった
3. 生活ルールを守る目的は、メシアに似た者とされていくこと・・・ルールを守る力は神から来るのであるから、メシアに似た者とされていくことも、信者個人の力ではなく、神の恵みである
4. 生活領域の中から特に4つの生活領域について、メシアの律法の箇所を見る
 - (1) 市民生活・・・政府との関係、司法との関係
 - (2) 社会生活・・・主従の関係(現代の私たちに適用すると、経営者と労働者との関係)、勤労倫理
 - (3) 家庭生活・・・夫婦の関係、親子の関係
 - (4) 教会生活
5. 旧約聖書の中の十戒と、メシアの律法との比較

1. 生活ルールは、2つから成る：「メシアの律法」＋「旧約聖書の中の永遠の原則」

(1) 「メシアの律法」と、それを指す別の用語3つ

① **キリストの律法** (ガラ 6:2)・・・イエス・キリストによって与えられた律法である。

- 「モーセの律法」は、モーセを仲介者として与えられた。これに対して、キリストの律法は、**ギ**キリスト (= **ハ**メシア) によって与えられた。「キリストの律法」または「メシアの律法」という用語は、モーセの律法と区別する上で、基本的な用語である。
- メシアの律法は、新約聖書の中のいろいろな箇所、信者の生活領域、たとえば市民生活において、政府や司法との関係においてはどうか、といった個別具体的な事柄に応じて記されている。メシアの律法は、まとめて箇条書きになっているわけではなく、新約聖書に記された信者の生活ルール全体を指す用語である。その内容については、後述、「4.」にて説明する。

② 新約聖書の中には、メシアの律法を指す別の用語が、次のとおり、3つある。

- **いのちの霊の律法** (ロマ 8:2)・・・内住の聖霊が私たちを導いて、メシアの律法の要求に従って生きることができるようにしてくださる。その結果、私たち信者は、スピリチュアル・ライフ (霊的な生き方) を生きられる。
- **完全な律法** (ヤコブ 1:25)・・・モーセの律法は不完全な律法であった。どの点で不完全であったかという点、それは、モーセの律法の時代のユダヤ人信者たちに律法の要求に従って生きる力を与えることができなかつた点である。それに対して、メシアの律法は、信者の内に住まわれる聖霊が信者を導き、メシアの律法の要求に従って生きることができるようにしてくださることとセットである。メシアの律法は、完全な律法である。
- **自由の律法** (ヤコブ 1:25、2:12)・・・メシアの律法は、モーセの律法からユダヤ人信者たちを解放した。モーセの律法ののろいから、ユダヤ人たちを解放したから、自由の律法と呼ばれる。自由の律法という言い方は、ユダヤ人信者にとっての表現である。

- **【補足】ヤコブ 2:8 の「最高の律法（王的な律法）」とは何か
2:12 の自由をもたらす律法、すなわち自由の律法と同じなのか？**

ヤコブは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」を「最高の律法」と呼んでいる。これは、モーセの律法の中からの引用である（レビ 19:18）。イエスご自身も、この命令をモーセの律法の中で二番目に大切な命令であると教えた（マルコ 12:28~31）。

モーセの律法には 613 の規定があると言われるが、重要度において最高のランクに位置づけられる命令であるという意味で、「最高の律法」と呼んでいる。

ヤコブは、教会の信者たちの生活ルールとして、モーセの律法を用いることを認めていたのか？ モーセの律法が終了したことを知らないのか？

答えは、まだこの時点では、モーセの律法が終了したことは知らなかった、である。

新約聖書の中で、最も早く書かれたのが、このヤコブの手紙である。メシアの律法に関する詳細な啓示は、まだこれからである。この時点では、モーセの律法が終了したという理解は、エルサレム教会の使徒たちもユダヤ人信者たちも、まだ持っていなかった。

そして、彼らは、この時点ではまだモーセの律法に従って生活していた。そのモーセの律法の中の最高の律法に照らすと、人をえこひいきすることは律法違反であると、ヤコブは、ここで教えている。ヤコブの手紙の読者は、ユダヤ人信者である。この時点ではまだ、異邦人伝道は始まっていない。

しかし、同時に、2:12 では、ヤコブは、自分たちについて、「自由をもたらす律法によってさばかれることになる者」と言っている。新約時代の信者に新しい律法が与えられるということは、ヤコブも知っていた。

(2) 旧約聖書の中の永遠の原則

- ① 神は罪を罰する
 - 創 3 : 14 サタンに利用された蛇に対する罰
 - 創 4 : 10~12 弟アベルを殺したカインに対する罰

- ② アダム契約 (創 3 : 16~19)
 - 16 節 夫婦の関係において、夫が家長としての立場に立つ。
 - 17・19 節 男は、労苦し顔に汗を流して食を得なければならない。
 - 【補足】 18 節の「草食」の規定は、ノア契約によって終了。肉食が許された。

- ③ ノア契約 (創 9 : 1~17)
 - 1・7 節 人は地に増え広がって生活しなければならない。
 - 3~4 節 食生活では、肉食が認められる。ただし、肉を血のあるままで食べてはならない。
 - 5~6 節 人を殺した者は、死刑とされる。→ 法による統治に従うこと、警察権力と司法制度を含む政府に従うべきこと

- ④ アブラハム契約 (創 12 : 1~3、7、13 : 14~17、15 : 5~18、17 章、18 : 18~19、22 : 1~18、ヘブル 11 : 8~19・・・アブラハムは神の約束を信じることを通して、復活を信じる信仰へと導かれた)
 - 信者は復活信仰にふさわしく生きるべきである。
 - 12 : 3 アブラハムを祝福する者は祝福され、のろう者はのろわれる。

2. 生活ルールを守る力は、神から来る・・・これは旧約聖書時代の信者には、なかった

① 信者は、聖霊を受ける

ヨハネ 7:37~39 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ下っていなかったためである。

② 信者は、聖霊によって力を受ける

使徒 1:8 聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。

③ 信者は、聖霊によって神の愛を心の中に注がれる

ロマ 5:5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心の中に注がれているからです。

④ 信者は、聖霊によって新しいのち（新しい性質）を受ける

ロマ 6:4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいのちに歩むためです。

- 「キリストの死にあずかるバプテスマ」・・・信者が信じたときに受ける聖霊のバプテスマを指す。これにより、信者は、キリストの死と葬りと復活に結び付けられ、キリストと一体化する。
- 「新しいのちに歩む」・・・信じたときに、その人の内側に、新しいのちが与えられる。これは、新しい性質である。神を愛し、神に従おうとする性質である。この性質に従って生きることを、新しいのちに歩むと表現する。

- 新しいいのち、新しい性質を与えるのは、聖霊の働きである。ヨハネ 3：6「御霊によって生まれた者は霊です」、新しいいのち、新しい性質は「霊」とも呼ばれる。

- ⑤ 信者は、新しい性質（新しいいのち、霊）に従うことができる

ロマ 8：3～4 肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。それは、肉に従わずに霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。

ロマ 8：10 キリストがあなたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊は義のゆえに生きています。

- ⑥ 信者は、聖霊によって神のことばを理解し、自分の周辺で起きる事柄にそれをあてはめることができる

I コリ 2：12～13 私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るのです。それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その霊的なことばを霊的な事柄にあてはめるのです。

- ⑦ 信者は、聖霊によって聖化される。聖化は、人のわざではなく、神のわざである。

I テサ 4：7～8 神が私たちに召されたのは、汚れたことを行わせるためではなく、聖さにあずからせるためです。ですから、この警告を拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたにご自分の聖霊を与えてくださる神を拒むのです。

- ⑧ 信者が神の命令を守ることができるのは、信者の内に聖霊がおられるからである。

I ヨハ 3：24 神の命令を守る者は神のうちにとどまり、神もまた、その人のうちにとどまります。神が私たちのうちにとどまっておられることは、神が私

たちに与えてくださった御霊によって分かります。

- ⑨ 自分の内に聖霊がおられることは何によって分かるのか、2つある。一つは、神の愛を知り、信じていること、二つは兄弟姉妹と互いに愛し合っていること、である。

- Iヨハ4:9~10 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって、私たちにいのちを得させてくださいました。それによって、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

Iヨハネ4:13~16 神が私たちに御霊を与えてくださったことによって、私たちが神のうちにとどまり、神も私たちのうちにとどまっておられることが分かります。私たちは、御父が御子を世の救い主として遣わされたのを見て、その証しをしています。だれでも、イエスが神の御子であると告白するなら、神はその人にうちにとどまり、その人も神のうちにとどまっています。私たちは自分たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにとどまる人は、神のうちにとどまり、神もその人のうちにとどまっておられます。

- Iヨハ4:11~12 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。いまだかつて神を見た者はいません。私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにとどまり、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。

Iヨハ4:17 こうして、愛が私たちにあって全うされました。ですから、私たちはさばきの日に確信を持つことができます。この世において、私たちもキリストと同じようであるからです。